

政策課題 滞在型観光について

政策課題について詳しく知りたい方は、
議会だより令和元年9月号をご参照ください。



市への政策提言書内容

- 1 東海自然歩道、小田貫湿原をはじめとした既存の周遊施設、インフラを魅力あるものに再整備していくこと。また、キャンプなどで使用する食材等を入手できる施設や仕組み等を朝霧エリア内に整備していくこと。
- 2 地域のクーポン券など来訪客に消費を促し、市内における経済の好循環を創出する仕組みを研究し、実行していくこと。
- 3 猪之頭公園にイベント会場、ワーケーション受入場所、各種観光情報発信基地など、より多くの機能を持たせて、朝霧エリアの観光拠点となるように整備、運営をしていくこと。
- 4 自然療法の活用や感染症対策の施設認証制度など、アウトドアレジャーにおける付加価値を生み出す取組について、研究していくこと。また、林業体験や自然保護活動などアウトドア活動に繋がるようなイベント等を積極的に行っていくこと。
- 5 雄大で神聖な富士山の麓というロケーションを生かし、アウトドアレジャーの聖地となるようなシティプロモーション等、効果的な情報発信を行うこと。また、知名度のあるアウトドアメーカーを誘致してイベントを行うなど、アウトドアメーカーの発信力の活用を研究していくこと。

提言書を受けての須藤市長の言葉

富士宮市は、保有する素晴らしい自然環境などを生かして、本市独自の発展をしていきたい。良い提案をいただいたので、市は議会と協力し、ダイナミックなことをやりたいと思っている。



【提言書提出の背景】

富士宮市は通過型観光の側面が強く、観光客の旅行消費額の大きさや地元への経済的還元は十分とはいえません。今後、滞在型、滞留型観光に変えていく必要があるという課題意識から、令和元年7月に「滞在型観光について」を政策課題として設定しました。

当初、市内観光施設等と意見交換を行いながら、いかにして、滞在型、滞留型観光へ変化させ、集客も図りつつ、旅行消費額を伸ばすかについて、議論をしてみました。

しかし、令和2年に入り、新型コロナウイルスの感染拡大により、観光に関する社会状況が一変しました。そのため、令和2年度からはアフターコロナを見据えた本市の観光の在り方を新たな視点として追加し、議論を行いました。

コロナ禍においてもアウトドアレジャーは比較的安心なレジャーとして社会的に認知され、利用客も増えており、アフターコロナの時代においても大勢の人が楽しめるものとして残っていくと予想されます。また、本市の雄大で神聖な富士山の麓はアウトドアレジャーを楽しむ場所として非常に魅力的なエリアであるといえます。

これらのことから、本市がアウトドアレジャーの聖地と認知され、大勢の来訪客を呼び込めるようになるとともに、広く市内に経済的還元が図られるようにすることを目指すべきとの結論に至り、上述のとおり提言を行いました。

課題分析実績

委員会開催…19回
勉強会開催…4回
視察開催……1回